

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第159版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家総本家 聴福庵



東京と熊本を繋ぎ、セミナー会場に居ながらも実際の環境を見学させて頂きました。離れていても、共にセミナーを作り上げられる素敵な実践。益々、園に伺いたくなりました。

## 距離に負けるな好奇心①

熊本の城山幼稚園様が先日  
のGTサミットにて、従来のセ  
ミナー会場からの実践発表では  
なく、自園からのオンライン実  
践発表に挑戦されました。動画  
を含めたパワーポイントでの発  
表だけでなく、スマートフォン  
を活用し、自園の保育環境を  
LIVE配信で移動しながら案  
内するなど初めてだらけの実践  
発表でしたが、遠隔からでも挑  
戦してみようと思った動機や、  
挑戦してみようと思ったことを  
豊田副園長にお伺いさせていた  
できました。

城山…発表の依頼をもらった  
時はオンラインで出来るのか  
という不安よりも、藤森先生  
からの依頼を貰って「やっ  
たー！」と思ったんです。オ  
ンラインの細かなところはカ  
グヤさんや園長に相談すれば  
きつとなんとかなると思っ  
いたのであまり不安はなかつ  
たですね（笑）  
カグヤ…ワクワクが先だった  
んですね。  
城山…そうですね（笑）オン  
ラインについての不安も、カ  
グヤさんとのリハーサル時に

細かなことを聞いて学ばせて  
もらってマイクも貸して貰  
えだし、ネットワーク環境も  
園長のおかげで次の日に改善  
されたのでそれほど困りませ  
んでした。その他に困ったこ  
とというと、実践発表を担当  
している職員がコロナでダウ  
ンしてしまったことですか  
ね。園に復帰してからは時  
間がなくて大丈夫かなと思っ  
たんですが、もともと実践発  
表に用意していた資料は7月  
にGT熊本で使ったものなの  
で、それをアレンジして環境  
セミナーに使うとしていた  
ので助かりました。発表メン  
バーも合計4名いたので、ダ  
ウンして園にいない間でも遠  
隔も含めて皆でそれぞれに協  
力して助け合っていたのが本  
当にすごいなと思いました。  
ダウンしたけど、チームで  
やっていけたから間に合っ  
て。チーム保育の良さですね。一  
人担任制の文化だったら無理  
でした。今回本当にチームと  
いう必要性和大切さを感じま  
した。  
カグヤ…皆でチームを作って  
分担していたからカバーでき  
たし、遠隔でも助け合えたん  
ですね。  
城山…そうですね、今回はベ

テラン2人と新人2人の4人  
でした。慣れた職員が実践発  
表をした方が手っ取り早いで  
すが、何事も経験ということ  
で少しの時間だけでも皆で発表  
者を代わることにしました。  
同じ空気で話をしたり聴い  
たりできたのもとても良かつ  
たですね。  
カグヤ…成功より成長を選ぶ  
という決断をしたんですね。  
発表の質で考えたら能力があ  
るとか、ベテランでとなる場  
合もあります。そうすると  
他の人やチームの成長の機会  
を奪ってしまいますもんね。  
今回の機会が一番みんなが成  
長するのはどれかを決断した  
んですね。  
城山…それは園長の判断で  
す。職員が休み始めたから悩  
みましたが、結果的に日頃が  
生きてよかったです。

（次号は引き続き、取り組ん  
で学んだことを掲載させてい  
たきます。お楽しみに！）



子どもたちもこの動画を見ながら  
実験に取り組んでいるそうです！

## おむすびの思い出



むかしの道具やかまどご飯に興味津々！

熊本の新明保育園様は  
「子どもたちのふるさとになる  
保育園」を目指し、日本の伝  
統文化を暮らし（保育）の中  
で体験し、感謝できる子ども  
が育つような様々な保育実践  
環境づくりを行っています。  
先日園に伺い、かまどでご  
飯を炊き、子どもたちとおむ  
すびをつくり感謝しながら味  
わうワークショップを行わせ  
て頂きました。かまどご飯も  
おむすびづくりも初のお子さ  
んもいる中、実際に自分でつ  
くったおむすびはとてもおい  
しかったようで、おかわりす  
る子が続出。2個目は、皆ま  
すます上手に丸くむすんで、  
一粒一粒のお米の命もむすば  
れたからか、おいしさが増し  
ているようにも見えました。

体験後、園長先生から「小  
さい頃、お母さんから炊きた  
てのご飯を手のにのせてもら  
いおむすびをつくって食べたこ  
とを思い出し、とても心が  
あたたかくなって嬉しくなり  
ました。」と感想がありました。  
それを聴き、子どもたち  
は今まさに、そんな懐かしの  
思い出、故郷の記憶をつくら  
ている最中で、それこそ大人  
になってこの日見た風景をふ  
と思い起こすかも…と思うと、  
不思議な気持ちになりました。  
後日談によると、早速翌朝  
家でお母さんにおむすびをつ  
くってあげた子もいたそうで、  
子どもたちに響いていること  
も、園の体験が家庭に広がっ  
ていくことにも感動しました。  
「世界では戦争、紛争、虐  
待、差別など多岐にわたる問  
題と直面している中、この様  
な心を育てる保育ができるこ  
とをありがたく思う。」と先  
生も仰ってましたが、原体験  
や豊かな思い出を通して、そ  
の後の人生の支えとなる心の  
根っこを育んでいける保育と  
いう仕事は、希望ある尊い仕  
事だと改めて感じています。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

### 認め合い、生きる



「みんな違ってみんないい」と、大人同士も認め合っていたいですね！（画像は一円対話でのいい笑顔です）

先日、弊社がコンサルティングを行っていた高校の卒業生であり、今は小学校の教員を目指して勉強中の学生さんから連絡をいただきました。「個性教育」をテーマに卒業論文に取り組んでいて、自身がクラスメイトとともに3年間一円対話を実践してきた経験から、子どもたちの個性を活かす教育として一円対話を研究したいと考えたそうです。

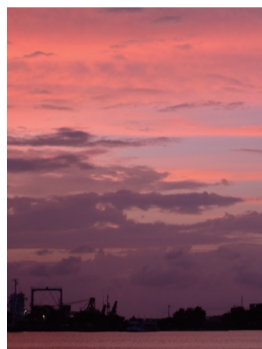
具体的にはまず母校へ訪問し、後輩たちが行っている一円対話を見学。さらに一円対話の生みの親である弊社代表へのインタビュー、そして先日は私たちが週に一度行っている一円対話に実際に参加してみると、その教育に対する探求心あふれる姿に感動し、刺激を受けました。

「子どもたちが個性を伸ばし自分らしくいるためには、一人ひとりの性格や得意不得意なことをみんなが理解することから始まるのではないか」そんな相互理解の考えから、教員になったら学級で一円対話を行ってみたいと言います。一円対話では相手の体験や気持ちに深く耳を傾け尊重し合い、認め合うことを大切にしており、「個性教育」とも繋がる部分があるように思います。子どもたちが自信を持って踏み出せる明るい未来は近づいているのだと、胸が熱くなる出来事でした。

### 日本の智と慧

### 彩の秋

澄んだ空気に映える秋の色。9月の「秋色や稲穂の黄金色（こがねいろ）」から10月の「団栗（どんぐり）色や柿色」へ、そして11月には「紅葉や蜜柑色」へと豊かに移り変わっていきます。色の名前には「赤色や黄色」と一括りにされる色の他、「空色や水色」あるいは「瑠璃色や朱鷺（とき）色」といった自然の色合いから付いたものもあります。更には、夕日が沈んだ直後の「黄昏（たそがれ）色」といった日本文化特有のいわゆる「伝統色」と呼ばれる色たち。何とその数は千百色余あるともい



大自然の芸術は惜しみなくその姿を刻々と変えながら私たちの人生に深い彩りを添えてくれているようです。

ますから、先人たちの見ていた風景は本当に豊かな日本だったのでしょ。それらは季節毎の花や草木の僅かな色合いの違いを繊細に見分けたり、空や雲の様子が刻一刻と変わるその一瞬を切り取ったりして、丁寧に命名されてきたのでしょ。目に映っている景色も「その色彩を意識する」とそこに神秘的な姿を現してくれます。「虫たちの音色」で楽しむ秋とともに「移りゆく彩の秋」もじっくり味わってみたいと思います。

### 一期一会庵

### 日本人の知恵

先日、熊本の新明保育園様で、カグヤで育てている無肥料無農薬の「むかしのおこめ」をつかった竈ごはんを炊くご縁をいただきました。

お水は、菊池水源から汲んできたもので稲刈体験は近くの田んぼで年長の園児たちと行いました。場所をととのえ、室礼をし、お米がどのようにできてきたかをみんなで学び園長と一緒に祈りました。

竈ごはんは移動式のおくどさんを使って園児たちの見守る中、備長炭を使いじっくりと炊き上げました。その間に、おむすびをつくるための準備として「むすび」「いのち」とはいったい何かというものをワークショップをして体験してもらいました。

炊きあがってからは、五感を使いみんなで一つずつおむすびをつくり、お膳の前に座り、丁寧な作法で深く味わいながら食べていきます。園児たちは一つ目を食べてからみんなおかわりのおむすびをつくりましたが、二回目はさらに上手につくってくれ

ました。参加した先生たちからも懐かしい味がしたと、こんなにも美味しいものかと感嘆の声が出ていました。

現代では、食事は忙しい中でお腹を満たすために食べるが増えたように思います。本来は、暮らしのなかで食事はいのちをつくり健康を守るための大切な日々の神事であり行事でした。不思議なことに、日本人に馴染みの深い竈ごはんやおむすびは、懐かしい感覚の御蔭でみんなのいのちの味わいを思い出します。

幼い頃の体験は一生の財産になります。その財産はこの懐かしいもの、馴染み深いもの、つまり日本人の知恵が伝承されるときに結ばれます。

食は「人を良くする」と書いています。人格を形成していくうえで、本当の食を体験した子どもは一生食の有難さを忘れないように思います。

カグヤの子ども第一義の理念の実践を通して、未来の子どもたちのために今しかできないことを皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っています。



### 編集後記



みんなの個性が開花しますように

記事中で紹介した教員を目指している学生さんから、来春から教壇に立てることになりました！と吉報が届きました。彼女を通じて子どもたちの応援ができること、私たちとても嬉しく思います。

一円対話はアクティブラーニングの要素を含んでいます。子どもが自分でつくったおむすびを美

味しいと感じ、お母さんにもつくってあげる。これも大事なアクティブラーニングだと思っています。

能動的に学ぶための環境を先生方が試行錯誤しながら用意してくださることが子どもの未来に繋がるのだと思うと、保育や教育は改めて大きな役割であり存在だと感じさせられます。

（真田由莉）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-8823  
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

